らの感想画を募集しています。紹介する民話は、子どもたちに、 ふるさとの伝説や昔話を教え、少しでも遠い祖先の心や、郷里の 年に再編した「松浦の民話」という本から引用した話です。 土地のぬくもりを感じてほしいと、松浦市教育委員会が平成4 このコーナーでは、この地域に伝わる民話を紹介し、皆さんか

らめしそうに天を見上げていまし りです。ついには、川や池の底もす らぎらした太陽が照りつけるばか た。しかし、来る日も来る日も、ぎ 「うちの井戸もからからたい」 分じゃ、いねもかれてしまうばい」 「田はほし上がってしまうし、この 「ああ、なして雨の降らんとじゃろか」 村の人たちは、青い顔をして、う むかし、むかしのこと。

やって来ますと、むらさき色の ろした村人たちが、雨ごいの場所へ た。やせ細り、目ばかりぎょろぎょ 集まって雨ごいをすることにしまし うえ死にするものも出てきました。 かし、弱い子どもや老人の中には、 ながら命をつないでいました。し かじり、しまいには、赤土まで食べ は、全部かれ果ててしまったのです。 村の人たちは、木の根や木の皮を そんなある日のこと。村人たちは そうして、せっかく育てて来た作物

松浦の民話⑤

じめました。

がたを見せ、やがて地われが生じは

むらさき色の雨

竹づつを片手に持ち、 りました。上人様はその間に、うら つを作られました。それからその の竹やぶから竹を切り、一本の竹づ 人々は、言われるままにあなをほ

と言われると、ほり上げたばかりの はなりません。いいですね」 んなことがあっても、そこを開けて たしが入りましたら、上をこの石と 「今から、わたしは、このあなの中 「上人様を、生きたまんまうむるこ 「そぎゃんことのでくるもんか」 あなの中へ入られました。 土でふさいでください。そして、ど に入って雨ごいをいたします。わ

> 命です。さあ早く」 かりつけるように言われました。 すると、上人様は、あなの中からし みんなは口々にそう言いました。 たあできまっせん」 「わたしの命は、生きものみんなの

土で固めました。 ら、石のふたをし、竹づつの周りを 村人たちはおろおろと泣きなが

仕事を終えた村人たちは、その周り るお経の声が流れておりました。 しょにお経を唱えました。 にひざまずくと、手を合わせ、いっ やがて夜になりました。上人様 竹づつからは、一心不乱にとなえ

> けられると、静かにこう申されました。 案しておられる様子でしたが、目を開 と、おっしゃいました。それから、上 えますと、しみじみと、 に来たことなどうったえるのでした。 とか雨一てきでもと、最後の雨ごい ためうえ死にするしかないこと、何 は、なみだながらに、雨が降らない と、声をかけられました。村人たち 「どうしたのじゃ」 力なく歩いてくる村人たちへ、 様が通りかかられました。そして、 けさをつけた、品のよい一人の上人 「すまぬが、人ひとり入れるほどの 人様は目をとじられ、しばらく何か思 「百姓には、水が命じゃからな」 上人様は、村人たちの話を聞き終



いきました。 のお経は、暗い山から星空へ流れて

つものように、上人様のあなの周り 上人様のきびしい声がするのでした。 るばかりじゃ。取ってはならぬ」 なっていきます。 につれて、声はだんだん細く小さく なく続きました。しかし、日がたつ 鐘の音とともに、日夜、たえる間も 「ならぬ。今までの苦労がむだにな 「ふたば取ろう。見殺しにゃでけん」 人が石に手をかけると、あなの中から お経の声は、チーンチーンと鳴る 二十一日目の朝、村人たちが、い

> 「上人様あ」「上人様あ」 は竹づつの周りにかけより、口々に、 何の声も聞こえません。村人たち へやって来ました。しいんとして、

ろいて見上げた村人たちの目に、 みなりが鳴りひびきました。おど つりぽつりと雨が落ち始めたでは くのが見えました。と間もなく、ぽ まつ黒な雲が、みるみる広がってい かぴかっといなずまが空を走り、か と大風が木々をゆすり始めると、ぴ としましたが、びくともしません。 こと。力をふりしぼって動かそう んなでふたの石を持ち上げようと て泣き出しました。泣きながら、み ばかりです。村人たちは、声を上げ かし、あなの中はしいんとしている と、声をかぎりにさけびました。し しました。けれども、その石の重い その時でした。とつぜん、ざあっ

ありませんか。 「雨だあ」「雨だあ」

んでいた村人の一人が、目を大きく 野を、田畑をぬらしていきました。 たちまち雨はしぶきを上げて、山を、 その時です。おどり上がって喜 村人たちは飛び上がりました。

けさの色じゃ」 「ほんとじゃ。この色は、上人様の と、言い出しました。 むらさき色ばしとるぞ」 「お、おい、この雨ん色ば見てみろ。

くっては飲み、すくっては飲みしま みんなは泣きながら、その雨をす

様をお祭りしました。(御厨町中野) 思い、あなのあとにお堂を建て、上人 村の人たちは、この上人様のご恩を こうして村はよみがえりました。

■あなたの力作を募集! ―民話の感想画募集―

またはメールにて送付してくだ 記入の上、左記まで持参、郵送 は審査をし、上位のものを次の をイラストにして、必要事項を 市報で紹介します。 さい。応募いただいたイラスト この民話を読んで感じた情景

【**イラストの規格】**はがきまた 【**応募資格**】住所、年齢、性別 など何も問いません。どなた はA4サイズ以内の白紙に絵 でも応募できます。

の具やクレパスなどで書いた

【必要事項】住所、氏名(ふり (学校名) がな)、電話番号、年齢、職業 カラーのもの(色鉛筆の場合 は濃く塗ってください)。

※掲載する場合、ペンネームを ご記入ください。 希望する人は、ペンネームも

※はがきで応募される人は、必 個人情報は民話コーナー以外 には使用しません。 ください。なお、いただいた 要事項を表の下部に記載して

【応募・問合せ先】 【応募締切】8月16日(月)必着

T859 - 4598

松浦市志佐町里免365番地 松浦市まちづくり推進課

20956 - 72 - 1111 nisyo@city.matsuura.lg.jp

※福島支所、鷹島支所、そのほ かの各支所でも受け付けてい

中世の松浦 鷹島海底遺跡

28点。 たり 存処理作業中です。 料などが出土しています。 含めると総遺物点数は2, 遺物と海底面で採集した遺物および浚渫の際に出土した遺 号を付して取上げてい 陶磁器や武器 平成 13 14 これにサイドポンプリフトを通して筏上で確認され 年度の緊急調査では、 類以外にも船 ・ます。 その中でも船材や多くの 423点です。 13年度は676 材をはじめ 海底 から出 出 傅 点 や漆製 土遺物は多岐に 14 年 した遺物 木製品は 品、 度は 文字 1, 物 資 3

内ではこれまで出土がなか 13世紀中ごろから後半に位 遺物の中で、 陶磁器が製作され 置づけられています。 た鈞窯系の た時 期 がはこ 陶器碗が出土してい れまで その中 0 研 究か で、 市 6

▶鷹島歴史民俗資料館で展 宗中

とから鈞窯の名が生まれ

ます。

写真は日

一本で出

で派青釉が内外面に飛ぎる対象の大

大碗

門軸が内外面に

に施

高は7・8だで、

内面

斑文が見られます。

ています。

口径は19

チセン、 釉さ 鉢 発見され

7 おり、

が明代に

鈞州と呼

ばれたこ その場所 窯跡は河南省禹県八卦同で栄えた窯の名称で代表的な

鈞窯は中国北

宋時代に

松浦の民話イラスト

読者の皆さんから寄せられたイラストの 審査結果を以下の通りお知らせします。

先月の民話「きつねのお凌」のイラストに、5通の応募がありました。ご応募ありがとうございました。



【最優秀賞】

近藤日陽ちゃん(星鹿保育園、5) 「おむこさんきつねが『産婆さんを呼びに行 くから待っててね』とおよめさんきつねに 話してる声が今にも聞こえてきそうな作品 です」(はま)



【優秀賞】 吉原葉月ちゃん (星鹿保育園、5) 「おむこさんきつねが人間に化け て産婆さんを呼びに行った様子 が上手に描かれていますね」はま



【優秀賞】学童保育スマイルキッズ志佐児童クラス 渡邊哉太くん(志佐・辻ノ尾、7) 「人間に化けたおむこさんきつね の表情で、心配している様子がよ く分かりますね」(はま)





す」(はま) 「3人の表情がよく描かれていま『3人の表情がよく描かれていまペンネーム『岩田葵五郎』 (志佐・辻ノ尾、10) 【優秀賞】 はま ŧ 10

ペンネーム 「赤ちゃんが生まれてみんなうれペンネーム 『イブロー』 (志佐・辻ノ尾、5)